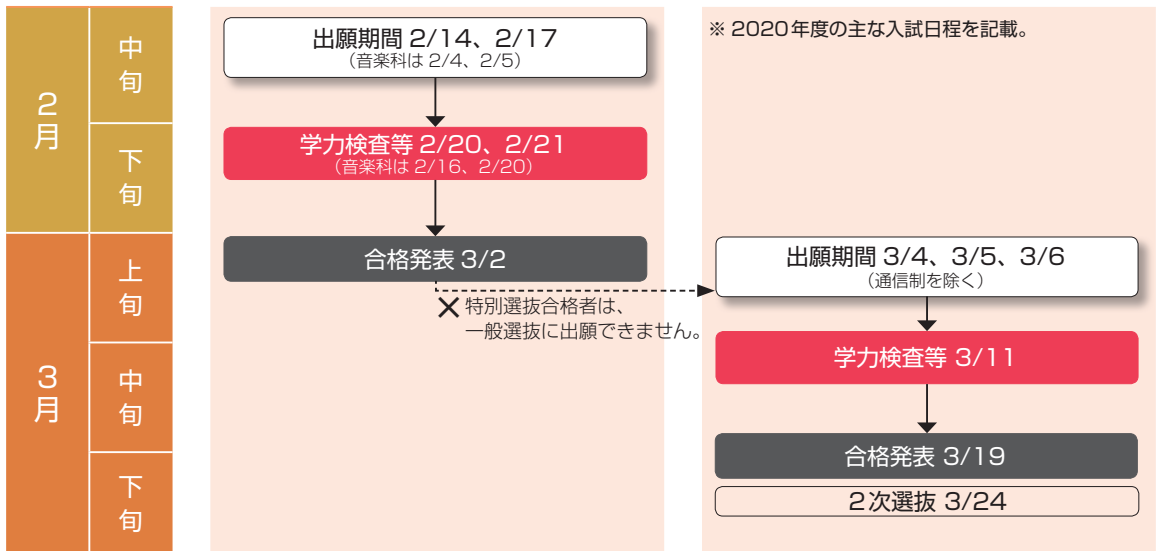


# 大阪府

通学区域について  
府内全域、どの学校・学科・コースでも受験することができます。

選抜名	特別選抜	一般選抜
実施学科・設置校など	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇工業に関する学科(デザイン系)／市立工芸・岸和田市立産業</li> <li>◇体育に関する学科／市立桜宮・市立汎愛・摂津・大塚</li> <li>◇音楽科/夕陽丘・◇芸能文化科/東住吉</li> <li>◇美術科・総合造形科/市立工芸・港南造形</li> <li>◇演劇科/市立咲くやこの花</li> <li>◇グローバル探究/水都国際</li> <li>◆エンパワメントスクール</li> <li>◆クリエイティブスクールⅠ部・Ⅱ部</li> <li>◆昼夜間単位制/市立中央</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇全日制のすべての学科(特別選抜を行う学科を除く)</li> <li>◆クリエイティブスクールⅢ部</li> <li>◆定時制</li> <li>○通信制</li> </ul> <p>※◇◆○はそれぞれ下記選抜資料に対応。</p>
選抜資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇調査書、自己申告書、学力検査(5教科)+実技検査</li> <li>◆調査書、自己申告書、学力検査(5教科)+面接</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇調査書、自己申告書、学力検査(5教科)</li> <li>◆調査書、自己申告書、学力検査(3教科)</li> <li>○調査書、自己申告書、面接</li> </ul>



## 入試当日のスケジュール

### <特別選抜>

時限	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
教科	国語	数学	英語	理科	社会
問題	A・B	A・B	A・B	リスニング	共通
時間	40分	40分	40分	15分	40分
時刻	9:00~9:40	10:00~10:40	11:00~11:40	11:50~12:05	13:00~13:40
配点	45点	45点	45点	45点	45点

実技検査(学力検査の翌日、音楽科の視唱・専攻実技は学力検査の前に実施する)

学科	デザイン美術系	体育	音楽	グローバル探究	伝統文化	演劇
種目	基礎的描写 総合的表現	運動能力 運動技能	聴音 視唱 選考実技	英語の音読 英語の口頭試問	朗読 口頭試問	身体表現 歌唱表現
配点	75点 75点	45点 180点	20点 30点 100点	20点 80点	50点 50点	75点 75点

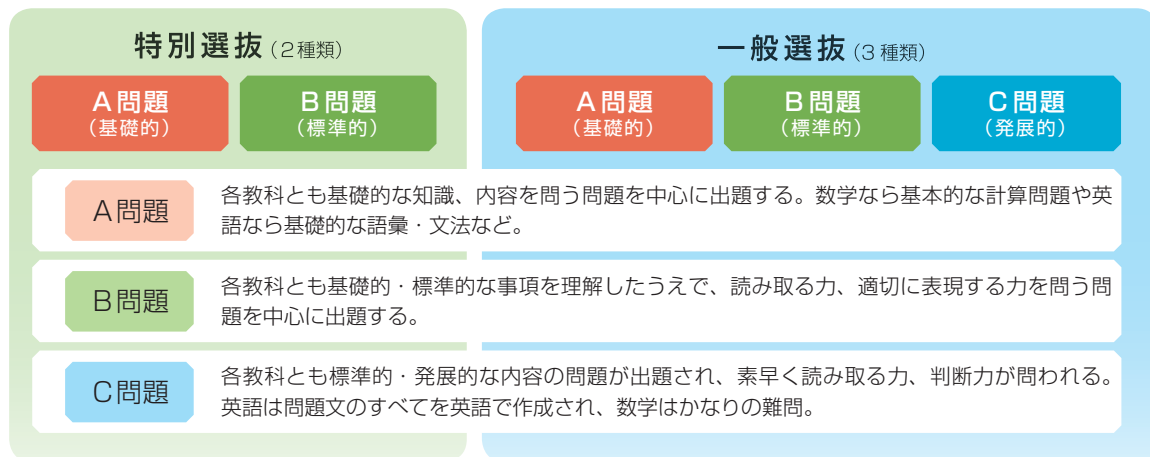
### <一般選抜>

時限	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
教科	国語	数学	英語	理科	社会
問題	A・B・C	A・B	A・B	リスニング	共通
時間	50分	50分	40分	15分	40分
時刻	9:10~10:00	10:20~11:10	11:30~12:10	12:20~12:35	13:30~14:10
問題		C	C	リスニング	※数学のC問題は60分。対象校では英語以降の開始時刻が10分ずつ遅くなります。
時間		60分	30分	25分	
配点	90点	90点	90点	90点	90点

# 入学者選抜の概要 (2019年度の場合)

## 学力検査にはA・B・C問題がある

国語・数学・英語の問題については、2種類(特別選抜)／3種類(一般選抜)が作成され、各高校ではそのいずれかを選択して出題されます。



※英語の学力検査で使用する英単語は、府教委が作成する「大阪版中学校で学ぶ英単語集」の範囲から出題。問題作成にあたっては、学力検査の難易度に応じた単語を使用します。

## 英語は「外部検定スコア」で点数が保障される

外部検定のスコア等が下記レベル以上の場合、出願時に申請すれば以下の点数を保障。学力検査の点数を上回れば、その点数が採用となります。

外部検定のスコア等			点数	保障点数	
TOEFL iBT	IELTS	英検		特別選抜	一般選抜
60～120点	6.0～9.0	準1級	100%	45点	90点
50～59点	5.5	対応なし	90%	41点	81点
40～49点	5.0	2級	80%	36点	72点

## 全員、出願時に「自己申告書」の提出が必須！

あらかじめ教育委員会が提示するテーマについて記述し、出願時に提出します。「あなたは、中学校等の生活でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか」といったテーマに対し、できるだけ具体的に記述することがポイント。点数化はされず、また字数の制限もないが1,200字～1,400字程度が想定されています。

## 複数学科設置校について ～例：箕面・和泉(グローバル科/普通科設置)など

出願は1校1学科等に限りませんが、複数の学科を設置している学校では他の1学科等を第2志望することができます。第2志望の扱いは以下のとおり。

- ①志望学科に関係なく、すべての受験生を総合点順に並べ、上位者からそれぞれの第1志望の学科の合格候補者とする。
- ②1つの学科のボーダーゾーンを含んだ人数が合格候補者で満たされた時点で、その学科の合格者を先に決定する(ボーダーゾーンの扱いについては次ページ参照)。
- ③その時点での合格決定者を除いた者の中から、志望順位に関わらず総合点の上位者から順に、他方の学科の合格者を決定(ただしその学科を志望しない者を除く)。
- ④3つ以上の学科を併置している場合は、同じ手順をくり返す。

各高校では、あらかじめ下記の5タイプからいずれかを選択。高校ごとに決められた比率（学力検査：調査書評価）によって、合否判定のための総合点が算出されます。

**特別選抜** 総合点  
450点満点

学力検査の成績  
225点満点  
5教科(国社数理英)各45点  
※実技検査を行う学科では、上記の得点に実技の得点を加えて総合点とする。

+

調査書の評価  
225点満点  
9教科×5段階×各学年倍率

1年	2年	3年
1倍	1倍	3倍

タイプ	①と②の比率	①学力検査の成績にかける倍率	②調査書の評価にかける倍率
I	7:3	1.4倍(315)	0.6倍(135)
II	6:4	1.2倍(270)	0.8倍(180)
III	5:5	1.0倍(225)	1.0倍(225)
IV	4:6	0.8倍(180)	1.2倍(270)
V	3:7	0.6倍(135)	1.4倍(315)

※（ ）内の数値は、倍率をかけた点数。

**一般選抜** 総合点  
900点満点

学力検査の成績  
450点満点  
5教科(国社数理英)各90点

+

調査書の評価  
450点満点  
9教科×5段階×各学年倍率

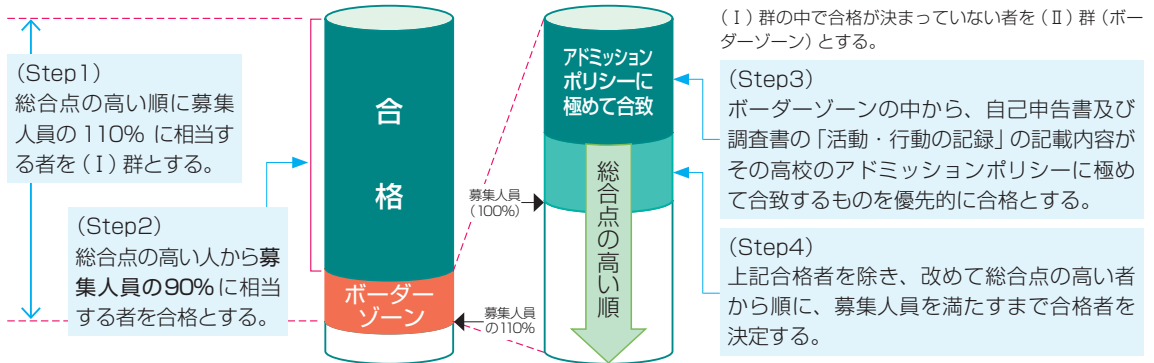
1年	2年	3年
2倍	2倍	6倍

タイプ	①と②の比率	①学力検査の成績にかける倍率	②調査書の評価にかける倍率
I	7:3	1.4倍(630)	0.6倍(270)
II	6:4	1.2倍(540)	0.8倍(360)
III	5:5	1.0倍(450)	1.0倍(450)
IV	4:6	0.8倍(360)	1.2倍(540)
V	3:7	0.6倍(270)	1.4倍(630)

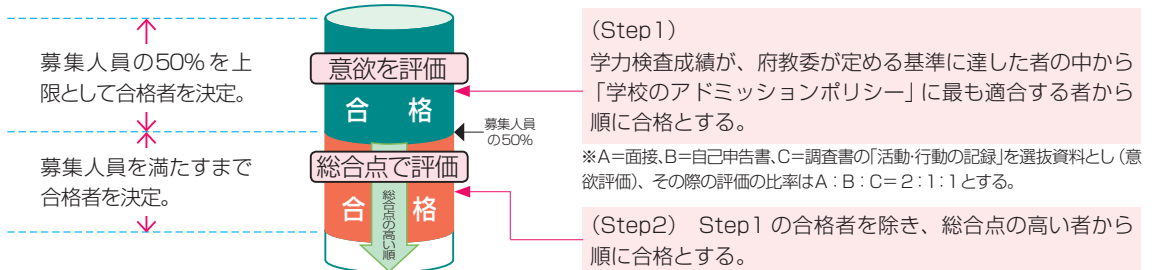
※（ ）内の数値は、倍率をかけた点数。

## 合否判定の方法

### 1. 一般選抜（通信制除く）・特別選抜（実技検査実施）



### 2. 特別選抜（面接実施）



### 3. 一般選抜（通信制課程）・二次選抜

面接（自己申告書等を参考資料とする）および調査書を総合的に判断し、合格者を決定します。

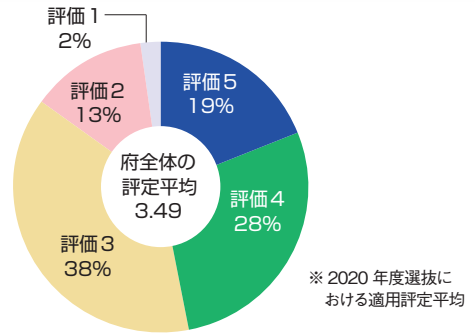
## 「調査書」の評価対象は、中学の全学年

各教科の評定（5段階評価）について、中学1年からの学習活動を幅広く評価するとともに、中3での学力を重視。評定の比率を3年：2年：1年＝3：1：1としています。

### 府内統一ルール（中3生）

- ① 中学2年生時のチャレンジテストによる検証をもとに、府全体の「評定平均」を計算する。  
 府全体評定平均  $3.49 = 5 \text{ (評定)} \times 19\% + 4 \times 28\% + 3 \times 38\% + 2 \times 13\% + 1 \times 2\%$
- ② 「府内中3生チャレンジテスト」における当該校の平均正答率と府全体との比  
 B中学校の場合  
 $63.0\% \div 60\% = 1.05$
- ③ 当該校の「評定平均のめやす」を計算する  
 B中学校の場合  
 $3.49 \times 1.05 = 3.66$
- ④ 評定平均のめやす  $\pm 0.3$  を当該校の「評定平均の範囲」とし、9教科のトータルの評定平均を範囲内で確定する。  
 B中学校の場合  
 $3.36 \sim (-0.3) 3.66 (+0.3) \sim 3.96$

※平均正答率は仮定した場合の数値。



A中学校	府全体	B中学校
57.0%	60.0%	63.0%
0.95	1とする	1.05
3.32	3.49	3.66

← A : 3.02 ~ 3.62 の範囲内  
← B : 3.36 ~ 3.96 の範囲内

※平均正答率は仮定した場合の数値。